

ACT-X
「数理・情報のフロンティア」
研究総括説明

研究総括 河原林 健一
(国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系 教授)



科学技術振興機構

1. ACT-Xについて

【背景】

若手研究者の自立的で挑戦的な研究を一層促すため、さきがけ等の若手研究者へのファンディングを充実・強化する。先行的に実施してきた「ACT-i」をベースに若手研究者（大学院生を含む）を支援する挑戦的研究支援制度「ACT-X」を新設した。

【事業概要】

➤ 支援対象

博士の学位取得後8年未満の若手研究者

*博士の学位未取得の場合は、学士の学位取得後13年未満の若手研究者

*学位を取得後に取得した産前・産後の休暇・育児休業の期間を除くと上記該当年数未満となる者を含む

*上記に関わらず、学生の方は大学院生に限り応募が可能。

➤ 支援規模

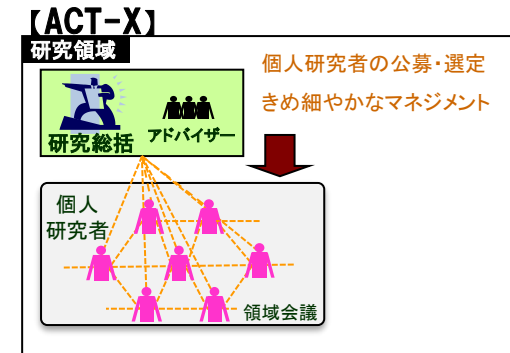
金額：150万円標準（500万円最大）/年×2.5年程度

※評価の高い課題は加速フェーズとして追加支援（1年程度）

➤ 制度の特徴

- 研究者2～3名に対してその分野のトップの研究者である担当アドバイザーがついてきめ細やかなアドバイス・指導を行うことで、さきがけ等につながるテーマとして戦略的に育成する。
- 研究総括やアドバイザーと参画研究者が集まる領域会議等を行うことで、若手研究者同士の相互のネットワーク形成にもつなげる。
- スモールスタートを導入するなど柔軟なプログラムマネジメントを実施する。

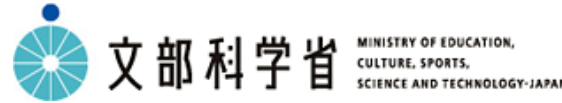
* 人材育成の視点からACT-X実施中でのさきがけへの応募（早期卒業）を認める。



※金額：直接経費のみ

2019年度に新設されたACT-X領域

戦略目標



- 数理学と情報科学の連携・融合による情報活用基盤の創出と社会への展開
- Society5.0を支える革新的コンピューティング技術の創出

+

平成28年度発足「ACT-i(情報と未来)」



「ACT-X」研究領域：数理・情報のフロンティア

ACT-X 数理・情報のフロンティア

研究総括：河原林 健一（国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系 教授）

研究分野：数理学、情報学、それらの応用分野、学際分野

【事業概要】

▶ 支援対象

博士の学位取得後8年未満の若手研究者

*博士の学位未取得の場合は、学士の学位取得後13年未満の若手研究者

*学位を取得後に取得した産前・産後の休暇・育児休業の期間を除くと上記該当年数未満となる者を含む

*上記に関わらず、**学生の方は大学院生に限り応募が可能。**

▶ 支援規模

金額：150万円標準/年×2.5年程度（期間最大で450万円程度）

※さらなる成果が期待できる研究課題は加速フェーズとして追加支援（1年程度）

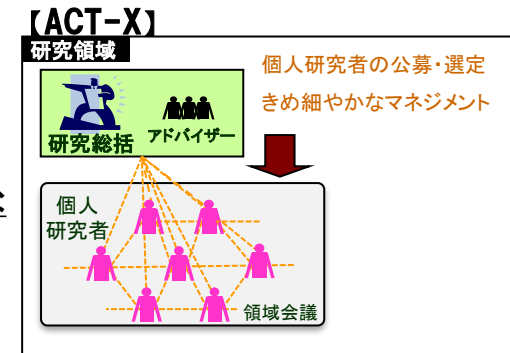
▶ 制度の特徴

- 研究者2～3名に対してその**分野のトップの研究者である担当アドバイザー**がついてきめ細やかなアドバイス・指導を行うことで、さきがけ等につながるテーマとして戦略的に育成する。
- 研究総括やアドバイザーと参画研究者が集まる領域会議等を行うことで、若手研究者同士の相互のネットワーク形成にもつなげる。
- スモールスタートを導入するなど柔軟なプログラムマネジメントを実施する。

* 人材育成の視点からACT-X実施中での**さきがけ**への応募（早期卒業）を認める。

* 2019-2021年の3回公募。**今年度応募が最後！**

※金額：直接経費のみ



説明の概要

1. ACT-Xとは？（概略）
2. 背景
3. 研究領域の概要
4. 選考と運営の基本方針
5. 前年度の応募状況と第1期生について
6. 研究期間と研究費
7. 領域アドバイザー
8. 公募スケジュール

ACT-X数理・情報のフロンティア 概略

1. カバーする分野が、情報分野のみならず数理分野も含める。
→ 情報分野の課題 + 数理分野の課題(どちらかでよい)

2. ACT-X「AI活用学問革新創成」との違い。

本領域は、情報分野でのAI研究成果発表を目指す。

國吉先生のACT-Xは、AIの情報分野外への応用がメイン。

3. 応募資格が年齢ではなく、博士、または学士取得からのカウント
(博士取得後8年未満、学資取得後13年未満)

4. 研究期間は2.5年。ただし加速フェーズは1年

5. RA制度(大学院生は、自分で自分をRAで採用することができる！)

6. 「さきがけ」に採用される前提で「早期卒業」を認める！

今年度が最後の募集です！来年度以降、同じような分野のプログラムが出る保証はありません！ → 応募資格の上限に近い方はぜひ応募を！

2-1. 背景 若手研究者育成！

若手研究者が個を確立し、
将来的に学術的・社会的なインパクトがより一層大きな研究を実現するために

研究者人生で最も大きなチャ
レンジに取り組む！

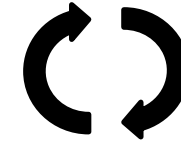


自身の研究の基盤となる
土台を固める



研究費・研究体制で研究者を
バックアップ

限られた研究分野の中に留まることなく
広い視野をもって考える



異分野の研究者と交流し、
互いの多様な専門性を活かして連携

2年6ヶ月という短い期間だが、若手研究者が自らの発想で果敢に最大のチャレンジを期待
同時期に採択となった本研究領域の若手研究者との交流
数理科学・情報学に関わる幅広い専門分野において活躍している領域アドバイザー等との議論

2-2. 背景 数理・情報分野

情報分野は若い人が世界のトップ！

Steve Jobs(Apple), Bill Gates(Microsoft), Sergey Brin, Larry Page(Google), Mark Zuckerberg(Facebook), Jeff Bezos(Amazon)は、25-35歳で人生最大のチャレンジに成功！

数学分野の最高峰のフィールズ賞は、40歳まで → 35歳くらいまでの仕事が重視される！

Google: 平均年齢29歳、平均年収約1600万円。GAFAはほぼ同じレベル

日本でもACT-i(情報と未来)が好評！



ACT-Xの「数理・情報のフロンティア」領域

若手研究者のキャリアアップと独自の発想で世界的な研究を行うことへの支援

+

将来の分野間の連携の土台となる人的交流の機会を提供

若手研究者が、数理・情報分野の次世代研究者を導く

「エコシステム」構築も視野！

3. 研究領域の概要

目的: 基本的には、**ACT-iを踏襲。ただし数学・数理科学分野も重点募集分野!**

具体的には、数学・数理科学と情報学、そしてその二つの分野を融合した研究分野において

- ① PageRank、圧縮センシング、差分プライバシー、Shor, Groverのアルゴリズムのようにその後の「**Game Change**」を起こすような画期的な数学・数理科学的概念・アルゴリズムの提案等。
- ② ポストムーア時代でのマシン開発。
- ③ ポストムーア時代のマシンに対応する計算モデル、高速アルゴリズムの開発等。
- ④ 数理・情報学の各分野における「breakthrough」をめざす研究開発。
- ⑤ 数理科学・情報学の手法を周辺分野へ応用による新たな研究分野を開拓。

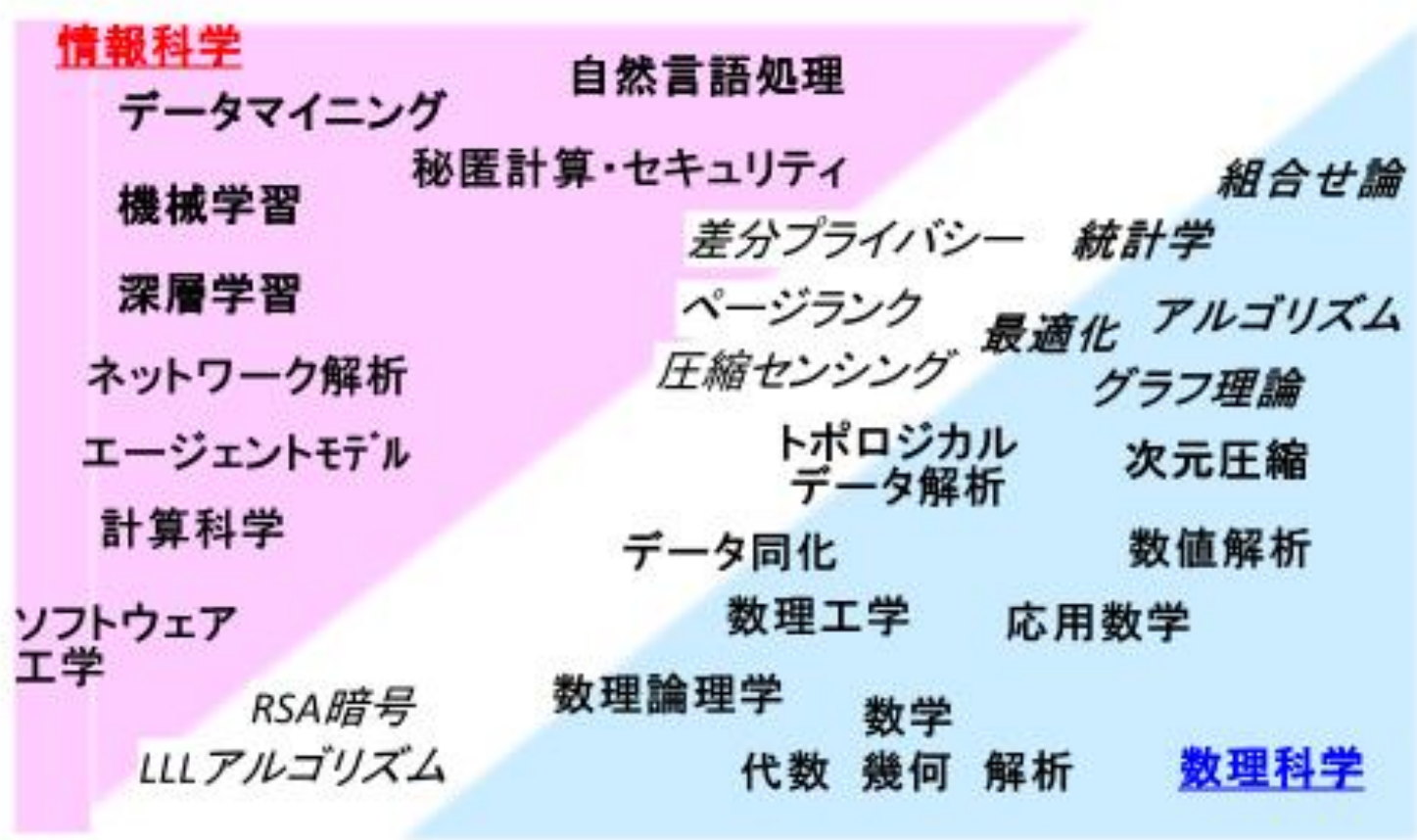
それぞれの分野でとがった研究者が将来の連携を視野にいれた「ネットワーク」づくり!

対象となる研究分野:

数学・数理科学・情報科学、そしてその応用と学際分野を含む幅広い専門分野

注意: 数理・数理科学 かつ 情報科学 を必要とするわけではない! 片方だけで十分!

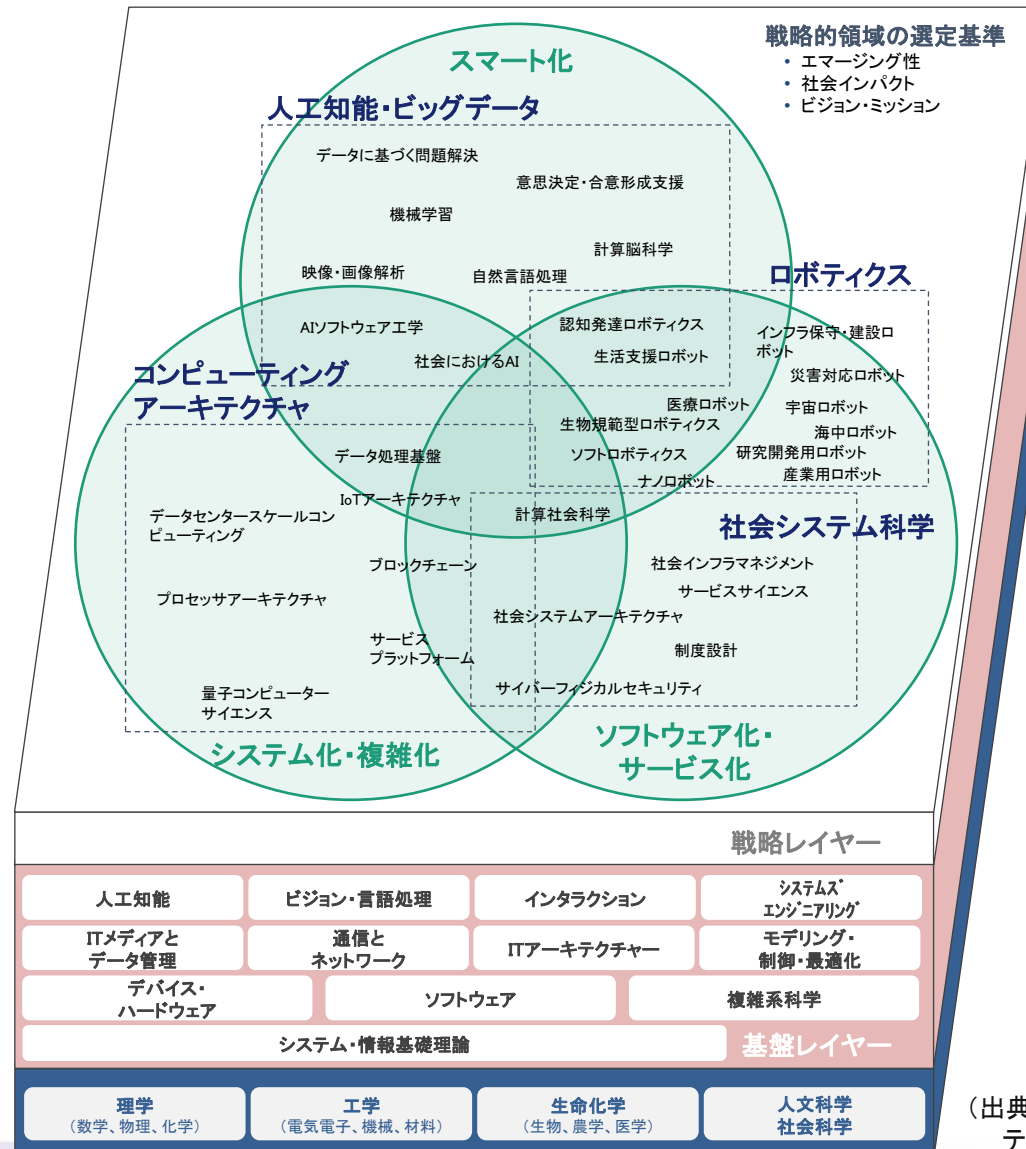
研究分野(例)



様々な分野への応用



情報分野全体も応募対象！



(出典: JST研究開発戦略センター, 「(研究開発の俯瞰報告書)システム・情報科学技術分野(2019年)」, CRDS-FY2018-FR-02)

4-1. 募集・選考の基本方針

■ 提案書に明記してほしいポイント

研究の着想や独創性、2年半の研究で取り組む目標と研究内容を記載

- ・研究課題の**チャレンジングな点を明記**
- ・長期的な観点で**将来的に目指す目標設定や夢**

が伝わるように

当該分野に大きくインパクトを与える研究、または新たな発想に基づく研究の提案を期待

■ 本領域の留意事項

- ・若手研究者が自らの発想で未来に向けて果敢に挑戦すること
- ・提案者が自己のアイデアに基づいて考案した個人研究であること
- ・**周辺研究分野、そして数理・情報分野全体の研究者に理解できるような記述・プレゼンを目指してほしい！**

* 特に**女性研究者、地方の研究機関、そして企業の研究者の応募を歓迎**

4-2. 運営の基本方針(一般)

・それぞれの研究者に対し、周辺分野の第一線で活躍する担当の領域アドバイザーを配置。研究構想、研究計画への助言、そしてキャリアアップへの助言(さきがけ応募へのアドバイスを含む)を年に数回予定。

・短期的な成果を目指すのではなく、各々の研究分野に大きなインパクトを与える研究課題への取り込みを強く推奨。評価も当然「チャレンジ」を加味！

採用者がそれぞれの分野でチャレンジし、そしてそのチャレンジを採用者同士および領域内でRESPECTしたい！

研究者は、研究者人生最大のチャレンジに取り組んでほしい！

→ そのためにできることは、総括、領域アドバイザー、JST関係者はできることをすべてやります！

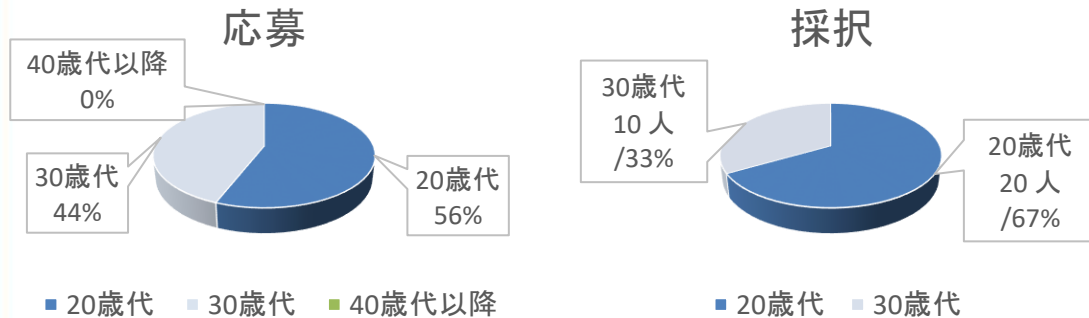
4-2. 運営の基本方針(総括の希望！)

- ・若手研究者が次世代のトップ研究者を作り出す「**エコシステム**」構築を目指す
→ 数学オリンピック、情報オリンピック、ICPCプログラムコンテストなどの経験者(高校生・大学生)と交流(共同研究も推奨) + アウトリーチ活動も奨励！
- ・ライフイベントを経験する世代が、自分たちで研究スタイルを構築！
→ 土日の領域会議はなるべく避けます！
- ・将来の指導的立場になる研究者同士のネットワークづくり！
- ・文科省若手官僚とも交流！

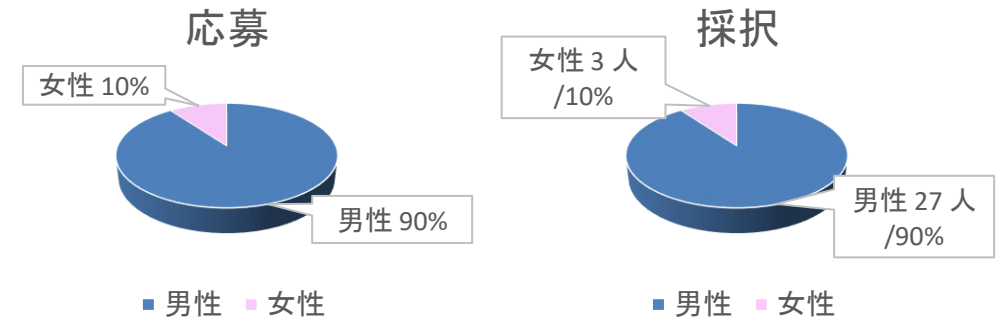
5. 前年度(2020年度)の応募・採択状況

- ・109件(応募受付件数)の意欲的な提案。応募者平均年齢28.9歳。学生(大学院生)提案42件(39%)。
→ 15名の領域アドバイザーとともに厳正かつ公平に選考を進め、書類選考で選ばれた54名の候補者に対し面接選考を行い、30名の提案を採択。
- ・採択者の平均年齢27.6歳、女性3名、学生(大学院生)15名、企業研究者1名(応募7名！少ない！)

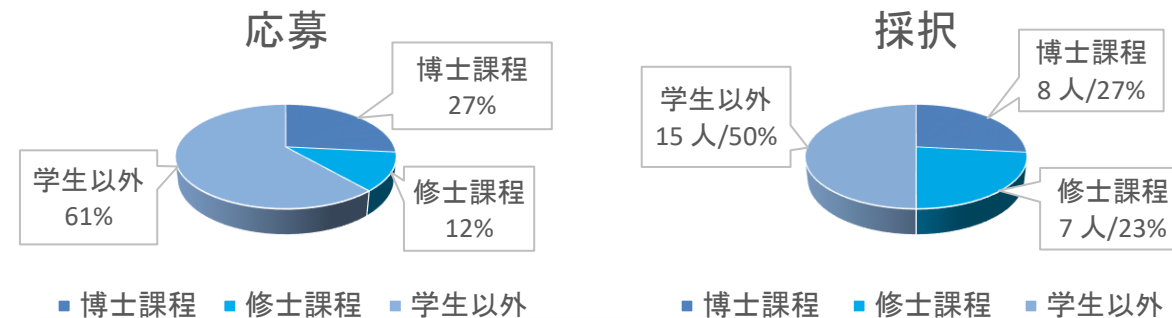
○年齢(年代)別件数内訳



○女性・男性別件数内訳



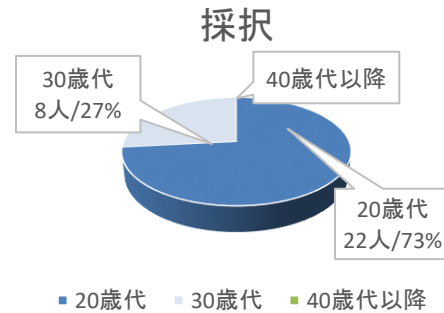
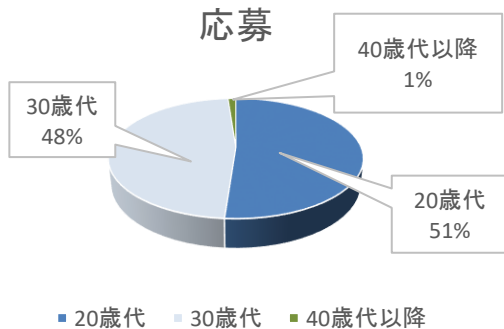
○学生(大学院生)、学生以外件数内訳



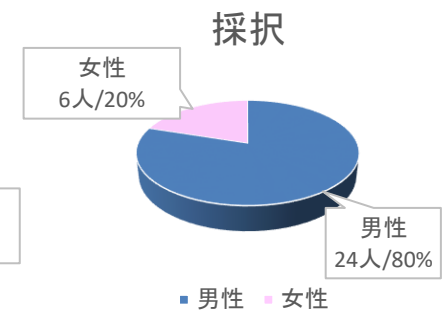
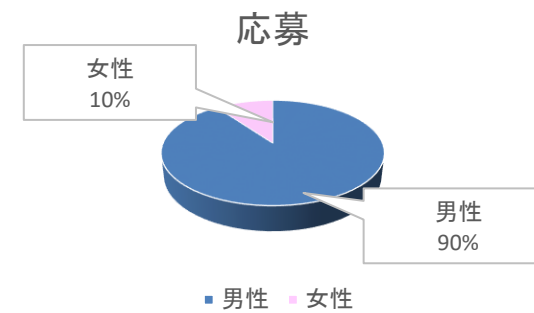
[参考] 発足年度(2019年度)の応募・採択状況

- ・170件(応募受付件数)の意欲的な提案。応募者平均年齢29.5歳。学生(大学院生)提案56件。
→ 14名の領域アドバイザーとともに厳正かつ公平に選考を進め、書類選考で選ばれた56名の候補者に対し面接選考を行い、30名の提案を採択。
- ・採択者の平均年齢28.1歳、女性6名、学生(大学院生)10名、企業研究者3名(応募7名! 少ない!)

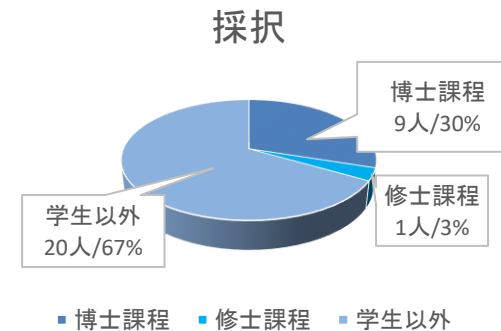
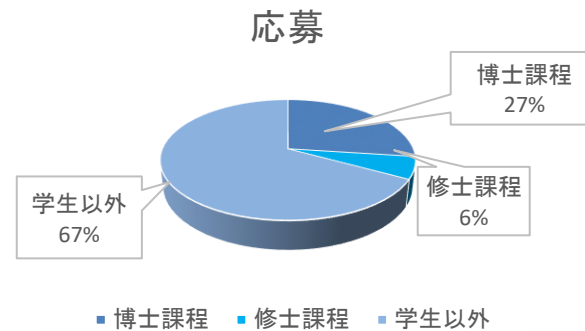
○年齢(年代)別件数内訳



○女性・男性別件数内訳



○学生(大学院生)、学生以外件数内訳



2019年度発足 ACT-X「数理・情報のフロンティア」研究領域 1期生研究者・課題一覧

【1期生研究者(計30名)一覧(薄青背景:企業研究者 3名、赤:女性研究者 6名、薄緑背景:大学院生 10名)】 (50音順、※所属機関・役職は採択時)

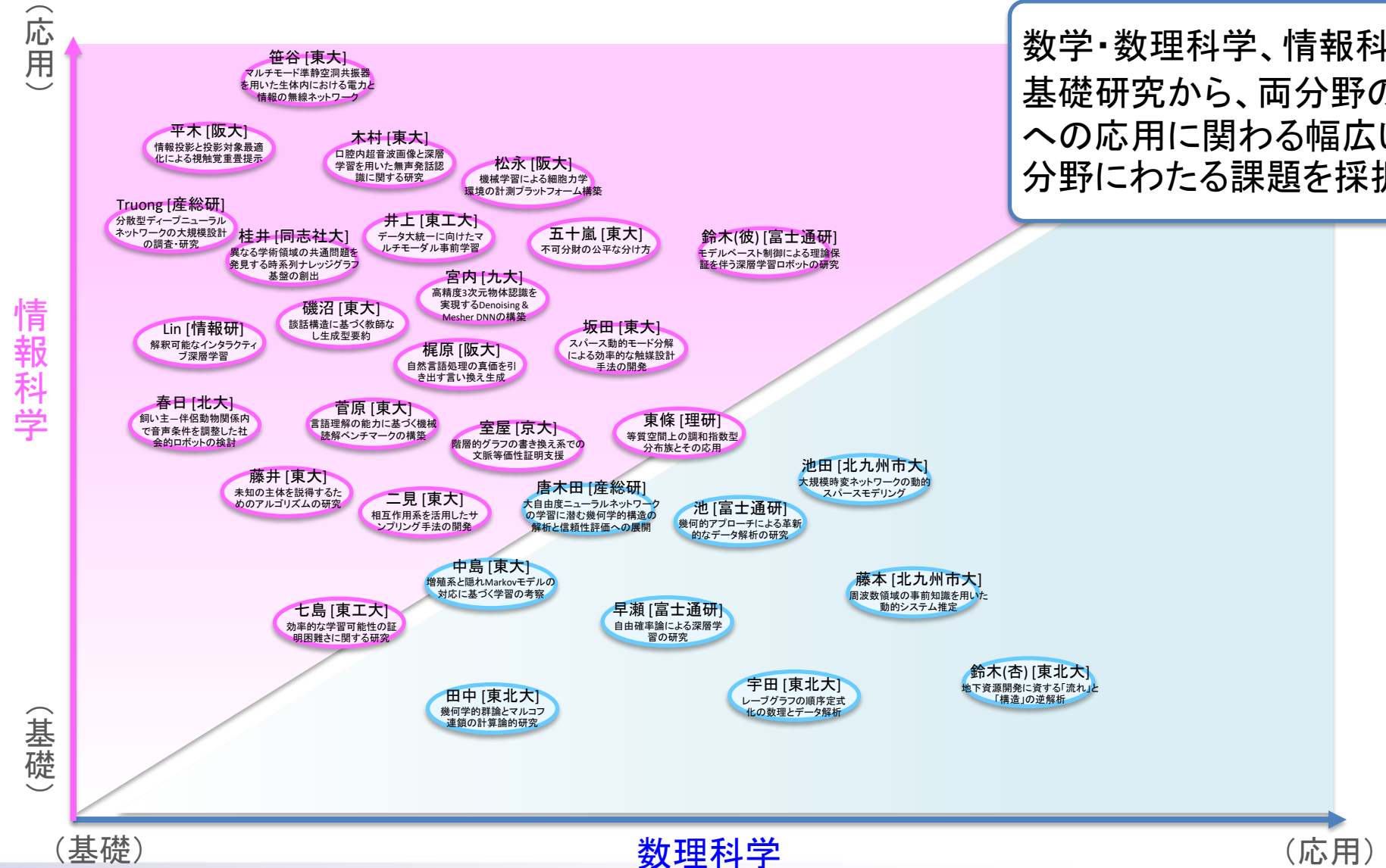
氏名	所属機関(※)	役職(※)	研究課題
五十嵐 歩美	東京大学	東京大学特別研究員	How to cut a discrete cake fairly? (不可分財の公平な分け方) さきがけ早期卒業
池 祐一	株式会社富士通研究所	研究員	幾何的アプローチによる革新的なデータ解析の研究
池田 卓矢	北九州市立大学	講師	大規模時変ネットワークの動的スパースモデリング
磯沼 大	東京大学	大学院生 (博士課程)	談話構造に基づく教師なし生成型要約
井上 中順	東京工業大学	助教	データ大統一に向けたマルチモーダル事前学習
宇田 智紀	東北大学	助教	レーブグラフの順序定式化の数理とデータ解析
梶原 智之	大阪大学	特任助教	自然言語処理の真価を引き出す言い換え生成
春日 遥	北海道大学	大学院生 (博士課程)	飼い主-伴侶動物関係内で音声条件を調整した社会的ロボットの検討
桂井 麻里衣	同志社大学	助教	異なる学術領域の共通問題を発見する時系列ナレッジグラフ基盤の創出
唐木田 亮	産業技術総合研究所	研究員	大自由度ニューラルネットワークの学習に潜む幾何学的構造の解析と信頼性評価への展開
木村 直紀	東京大学	大学院生 (博士課程)	口腔内超音波画像と深層学習を用いた無声発話認識に関する研究
谷 林 (グリーン)	国立情報学研究所	特任研究員	解釈可能なインタラクティブ深層学習
グエン チュオン	産業技術総合研究所	Postdoctoral Researcher	分散型ディープニューラルネットワークの大規模設計の調査・研究
坂田 逸志	東京大学	大学院生 (博士課程)	スパース動的モード分解による効率的な触媒設計手法の開発
笹谷 拓也	東京大学	大学院生 (博士課程)	マルチモード準静空洞共振器を用いた生体内における電力と情報の無線ネットワーク
菅原 朔	東京大学	大学院生 (博士課程)	言語理解の能力に基づく機械読解ベンチマークの構築 さきがけ早期卒業
鈴木 杏奈	東北大学	テニユアトラック 助教	地下資源開発に資する「流れ」と「構造」の逆解析
鈴木 彼方	株式会社富士通研究所	研究員	モデルベース制御による理論保証を伴う深層学習ロボットの研究
田中 亮吉	東北大学	助教	幾何学的群論とマルコフ連鎖の計算論的研究
東條 広一	理化学研究所	テクニカルスタッフ I	等質空間上の調和指数型分布族とその応用
中島 蒼	東京大学	大学院生 (博士課程)	増殖系と隠れMarkovモデルの対応に基づく学習の考察
七島 幹人	東京工業大学	大学院生 (修士課程)	効率的な学習可能性の証明困難さに関する研究
早瀬 友裕	株式会社富士通研究所	研究員	自由確率論による深層学習の研究
平木 剛史	大阪大学	招へい研究員	情報投影と投影対象最適化による視触覚重畳提示
藤井 海斗	東京大学	大学院生 (博士課程)	未知の主体を説得するためのアルゴリズムの研究
藤本 悠介	北九州市立大学	講師	周波数領域の事前知識を用いた動的システム推定
二見 太	東京大学	大学院生 (博士課程)	相互作用系を活用したサンプリング手法の開発
松永 大樹	大阪大学	助教	機械学習による細胞力学環境の計測プラットフォーム構築
宮内 翔子	九州大学	助教	高精度3次元物体認識を実現するDenoising & Mesher DNNの構築
室屋 晃子	京都大学	助教	階層的グラフの書き換え系での文脈等価性証明支援

2019年度発足 ACT-X「数理・情報のフロンティア」研究領域 2期生研究者・課題一覧

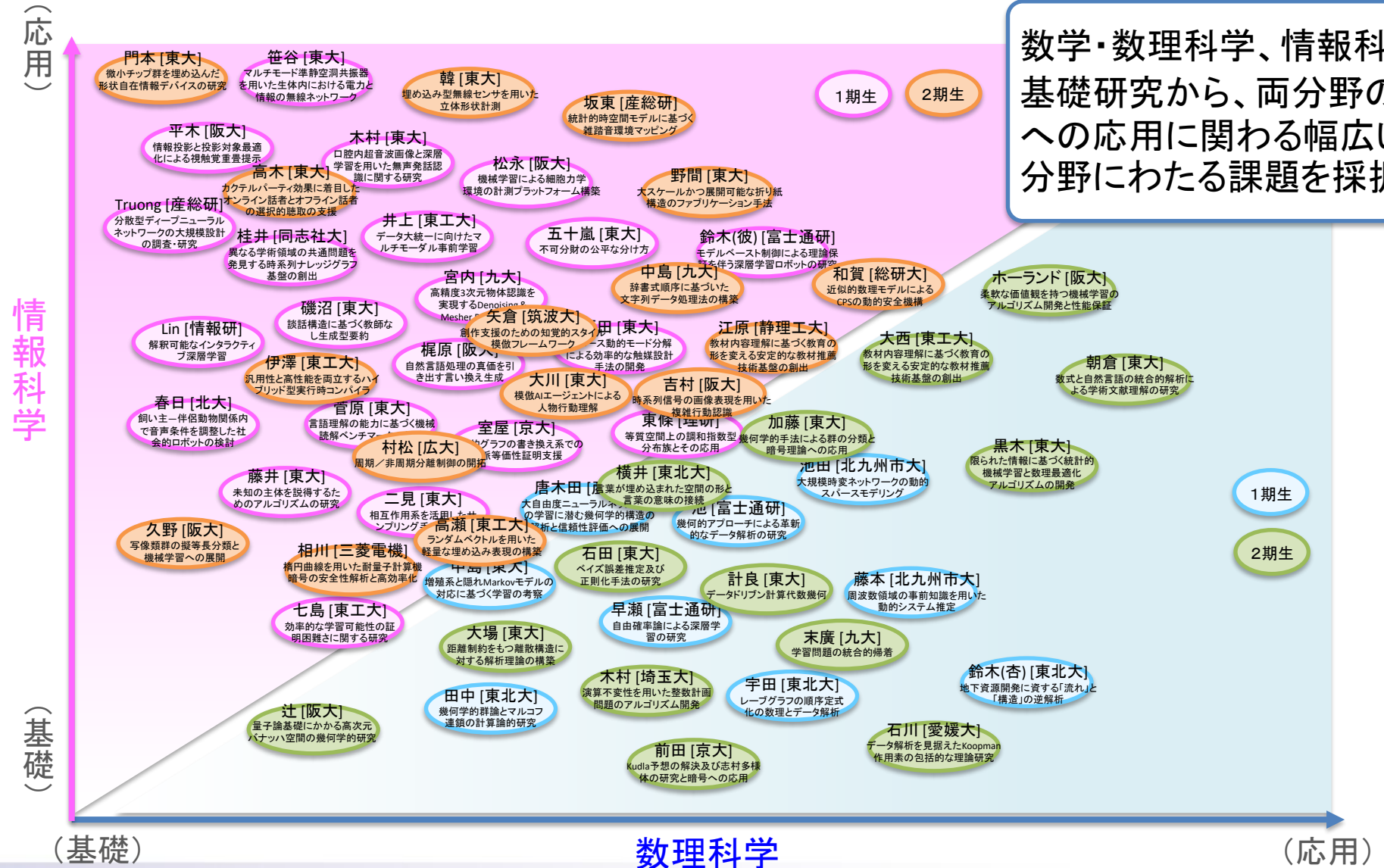
【2期生研究者(計30名)一覧(薄青背景:企業研究者 1名、赤:女性研究者 3名、薄緑背景:大学院生 15名)】 (50音順、※所属機関・役職は採択時)

氏名	所属機関(※)	役職(※)	研究課題
相川 勇輔	三菱電機株式会社	研究員	楕円曲線を用いた耐量子計算機暗号の安全性解析と高効率化
朝倉 卓人	東京大学	大学院生 (博士課程)	数式と自然言語の統合的解析による学術文献理解の研究
伊澤 侑祐	東京工業大学	大学院生 (博士課程)	汎用性と高性能を両立するハイブリッド型実行時コンパイラ
石川 勲	愛媛大学	特定助教	データ解析を見据えたKoopman作用素の包括的な理論研究
石田 隆	東京大学	大学院生 (博士課程)	ベイズ誤差推定及び正規化手法の研究
江原 遥	静岡理工科大学	講師	教材内容理解に基づく教育の形を変える安定的な教材推薦技術基盤の創出
大川 武彦	東京大学	大学院生 (修士課程)	模倣AIエージェントによる人物行動理解
大西 祐輝	東京工業大学	大学院生 (修士課程)	リーマン計量の合成による包摂アーキテクチャの構成
大場 亮俊	東京大学	大学院生 (修士課程)	距離制約をもつ離散構造に対する解析理論の構築
加藤 本子	愛媛大学	特定教員 (助教)	幾何学的手法による群の分類と暗号理論への応用
門本 淳一郎	東京大学	大学院生 (博士課程)	微小チップ群を埋め込んだ形状自在情報デバイスの研究
木村 慧	埼玉大学	助教	演算不変性を用いた整数計画問題のアルゴリズム開発
久野 恵理香	大阪大学	助教	写像類群の擬等長分類と機械学習への展開
黒木 祐子	東京大学	大学院生 (博士課程)	限られた情報に基づく統計的機械学習と数理最適化アルゴリズムの開発
計良 宥志	東京大学	特任研究員	データドリブン計算代数幾何
未廣 大貴	九州大学	助教	学習問題の統合的帰着
高木 健	東京大学	大学院生 (修士課程)	カクテルパーティ効果に着目したオンライン話者とオフライン話者の選択的聴取の支援
高瀬 翔	東京工業大学	助教	ランダムベクトルを用いた軽量の埋め込み表現の構築
辻 寛	大阪大学	大学院生 (修士課程)	量子論基礎にかかる高次元バナッハ空間の幾何学的研究
中島 祐人	九州大学	助教	辞書式順序に基づいた文字列データ処理法の構築
野間 裕太	東京大学	大学院生 (修士課程)	大スケールかつ展開可能な折り紙構造のファブリケーション手法
韓 燦教	東京大学	学振特別研究員 (PD)	埋め込み型無線センサを用いた立体形状計測
坂東 宜昭	産業技術総合研究所	研究員	統計的時空間モデルに基づく雑踏音環境マッピング
ホーランド マシュー ジェームズ	大阪大学	助教	柔軟な価値観を持つ機械学習のアルゴリズム開発と性能保証
前田 洋太	京都大学	大学院生 (修士課程)	Kudla予想の解決及び志村多様体の研究と暗号への応用
村松 久圭	広島大学	助教	周期/非周期分離制御の開拓
矢倉 大夢	筑波大学	大学院生 (修士課程)	創作支援のための知覚的スタイル模倣フレームワーク
横井 祥	東北大学	助教	言葉が埋め込まれた空間の形と言葉の意味の接続
吉村 直也	大阪大学	大学院生 (修士課程)	時系列信号の画像表現を用いた複雑行動認識
和賀 正樹	総合研究大学院大学	大学院生 (博士課程)	近似的数理モデルによるCPSの動的安全機構

R1年度発足 ACT-X「数理・情報のフロンティア」研究領域 2019年度採択課題のポートフォリオ



R1年度発足 ACT-X「数理・情報のフロンティア」研究領域 2019+2020年度採択課題のポートフォリオ



6-1. 研究期間と研究費

■研究期間 : 2.5年

■研究費の規模 : 150万円/年(直接経費)

※ 最大で研究期間で450万円程度

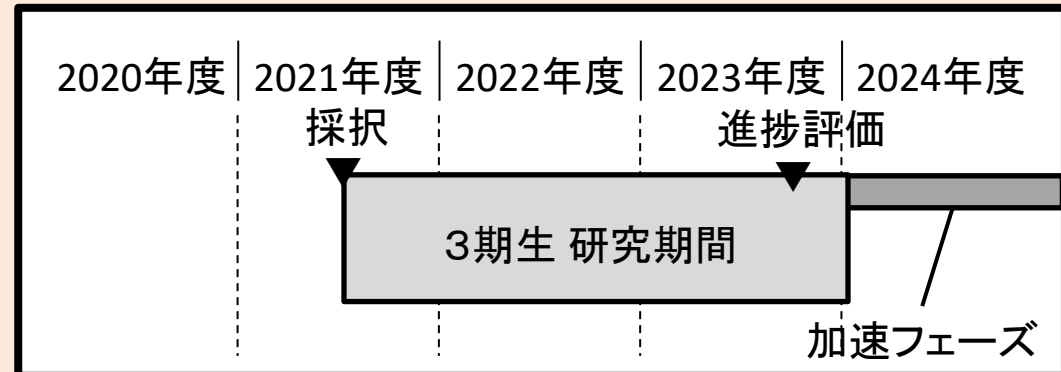
■加速フェーズ : さらなる成果が期待できる研究課題は追加で最長1年間支援

※ 研究費: 年間最大500万円程度(直接経費)

課題数の目安: 採択時の課題数の4分の1程度を想定

■採択数 : 20-30件程度

■募集 : 3期(今回が最終)



※提案時には、必ず研究提案募集webサイト(<https://www.jst.go.jp/kisoken/act-x/application/index.html>)において、「研究領域の概要」および「募集・選考・研究領域運営にあたっての研究総括の方針」の本文をご確認ください。

6-2. 応募資格

本研究領域で応募対象とする**若手研究者**

- 博士の学位取得後8年未満の若手研究者
- 博士の学位未取得の場合は、学士の学位取得後13年未満の若手研究者
- 学位を取得後に取得した産前・産後の休暇・育児休業の期間を除くと上記該当年数未満となる者を含む(詳細はJSTに要確認)
- 大学院生は、上記に関係なく応募が可能

大学院生には、RA支援制度あり! (大学院生採択者には、ACT-X研究従事時間に対してRA経費の申請可*)

応募資格は、「さきがけ」とは違う!

学振PD、DC、その他の「特任研究員」の方などで、応募要件を満たしているかご不明な方は、研究機関、JSTなどにお問い合わせを!

企業の研究者の応募も推奨します! (研究者番号を持ってない方は早めにお問い合わせを!)

* 申請の際は所属機関(大学)事務担当、指導教員に必ず相談の上、大学の制度・規定に沿って申請してください

7. 領域アドバイザー

■領域アドバイザー(15名)

(50音順)

氏名	所属	分野
穴井 宏和	富士通(株) 富士通研究所 人工知能研究所 所長	応用数学、数理情報学、知能情報学
伊藤 哲史	京都大学 大学院理学研究科 准教授	代数学/整数論、数論幾何
稲見 昌彦	東京大学 先端科学技術研究センター 教授	情報学、メディア情報学
内田 誠一	九州大学 大学院システム情報科学研究所 教授	メディア情報学、知能情報学、知能ロボティクス
太田 慎一	大阪大学 大学院理学研究科 教授	微分幾何学(幾何)
大武 美保子	理化学研究所 革新知能統合研究センター チームリーダー	神経情報学、神経工学、知能機械学
川原 圭博	東京大学 大学院工学系研究科 教授	電気電子工学、通信・ネットワーク工学
佐藤 いまり	国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系 教授	情報学、知覚情報処理、知能ロボティクス、コンピュータビジョン
鈴木 大慈	東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授	機械学習、統計的学習理論、数理統計学、データ解析
高木 剛	東京大学大学院 情報理工学系研究科 教授	暗号理論、情報セキュリティ
武田 朗子	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授	数理情報学、情報学、社会システム工学
千葉 滋	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授	情報学、ソフトウェア工学
蓮尾 一郎	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 准教授	基盤ソフトウェア
宮尾 祐介	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授	メディア情報学、知能情報学、自然言語処理
森前 智行	京都大学 基礎物理学研究所 准教授	情報学、情報学基礎理論、量子・情報融合

■領域運営アドバイザー(2名)

氏名	所属	分野
後藤 真孝	産業技術総合研究所 首席研究員	知覚情報処理、知能ロボティクス、音楽情報処理
坪井 俊	武蔵野大学 特任教授 理化学研究所数理創造プログラム 副ディレクター	トポロジー(幾何学)

8. 公募スケジュール

研究提案募集

募集
締切

5月11日 (火) 正午

※切後は提案を一切受理しませんのでご留意下さい

書類選考結果の通知期限	6月29日 (火)
面接選考日程	7月8日 (木) / 9日 (金) / 12日 (月) / 13日 (火)
研究開始	10月1日

※選考会日程は、研究提案募集webサイトをご確認ください

戦略目標「数理科学と情報科学の連携・融合による情報活用基盤の創出と社会への展開」

CREST・さがけ・ACT-X領域間連携について

2019年度新たに設定された戦略目標「数理科学と情報科学の連携・融合による情報活用基盤の創出と社会への展開」のもとに、CREST、さがけ、ACT-Xの3研究領域が発足しました。

当該分野の発展や研究者ネットワーク構築に向けて、これらの研究領域については積極的な連携をはかっていきます。



「数学・数理科学と情報科学の連携・融合による情報活用基盤の創出と社会課題解決に向けた展開」

研究総括：上田 修功 (NTTコミュニケーション科学基礎研究所 フェロー／
理化学研究所革新知能統合研究センター 副センター長)



「数学と情報科学で解き明かす多様な対象の数理構造とその活用」

研究総括：坂上 貴之 (京都大学大学院理学研究科 教授)



「数理・情報のフロンティア」*

※当該戦略目標に加え、戦略目標「Society5.0を支える革新的コンピューティング技術の創出」も含まれます

研究総括：河原林 健一 (国立情報学研究所情報学プリンシプル研究系 教授)



JST AIPネットワークラボについて

- 人工知能の分野において、我が国の強みをいかした技術戦略の策定・実行を指揮する司令塔機能として平成28年4月に設置された「人工知能技術戦略会議」において、産学官で取り組むべき人工知能の研究開発目標と産業化のロードマップが策定、研究開発から社会実装までを一元的に推進。
- 文部科学省では平成28年度より、理化学研究所革新知能統合研究センターを新設するとともに、JST戦略的創造研究推進事業の一部をAIPネットワークラボとして推進する「AIPプロジェクト」を開始。理研AIPセンターとJSTのAIPネットワークラボが一体となってAIPプロジェクトを推進。



*AIP (Advanced Integrated Intelligence Platform)

革新的な人工知能技術の中核として、ビッグデータ・IoT・サイバーセキュリティを統合した研究開発を推進

理化学研究所
革新知能統合研究センター
(AIPセンター)
杉山センター長



一体的に推進

人材成果

※右記に加え、2021年新規発足領域が追加される場合があります

JST AIPネットワークラボ ラボ長：江村克己



CREST

信頼されるAIシステム
(相澤 総括)



人工知能(栄藤 総括)



数理的情報活用基盤
(上田 総括)



知的情報処理(萩田 総括)



共生インタラクション
(間瀬 総括)



さかひ

PRESTO

信頼されるAI(有村 総括)



人とインタラクション
(暦本 総括)



数理構造活用(坂上 総括)



社会デザイン(黒橋 総括)



IoT(徳田 総括)



ACT-i

情報と未来(後藤 総括)



ACT-X

AI活用学問革新創成
(國吉 総括)



数理・情報のフロンティア
(河原林 総括)



(★2021年度募集領域)